

■後白河天皇 77代天皇。平安末源平期に院政を敷き、「梁塵秘抄」選述、絵巻プロデュースなど、文化の大転換を主導。

ごしらかわてんのう

・・・・・・・・1127= 生。_鳥羽天皇の第4皇子。母は待賢門院藤原璋子。

鳥羽院政始・1129= 2歳：

・・・・・・・・1136= 9歳：

・・・・・・・・1145=18歳：

即位以前にはその自由な境遇から、自分の好きな今様を昼夜を通して、また老若男女貴賤を問わずいっしょに歌った。

為朝鎮西乱行1154=27歳：

頼長内覧停止1155=28歳：_近衛天皇急死の後、鳥羽院、美福門院、藤原忠通の意向で、後白河の子(後の二条天皇)を即位させるための暫定措置として即位。

保元の乱・・・1156=29歳：*鳥羽院の死を契機に、皇位継承問題に摂関家の内紛が絡み、武士をとりこむ形で保元の乱が勃発する。勝利をおさめた後白河天皇側は崇徳上皇を配流し、信西を中心に天皇親政の体制をかため保元新制を断行、さらに没官所々を後院領として後白河院政の実現に備えた。この頃乙前より今様を習う。

後白河院政始1158=31歳：*二条天皇に譲位して院政を開始。以後二条、六条、高倉、安徳、後鳥羽の5代30余年にわたって院政。

平治の乱・・・1159=32歳：平治の乱が起こって源氏が失脚し、武門棟梁平清盛が後白河院政の爪牙として勢力を伸ばし始める。

・・・・・・・・1160=33歳：_初めて熊野に行幸し、礼殿で経供養の後、今様等を尽す。

・・・・・・・・1163=36歳：

_この間、熊野詣でを頻繁に行う。

清盛太政大臣1167=40歳：

後白河出家・1169=42歳：*臨終の乙前を見舞い、その歌を聞く。出家。「梁塵秘抄口伝集」を巻9まで選述。

・・・・・・・・1172=45歳：

・・・・・・・・1174=47歳：法住寺殿で今様会を催す。
_当初平氏とは協調的關係にあったが、平氏の専権化にともないしだいに対立する。

鹿ヶ谷事件・1177=50歳：_その最初の表面化鹿ヶ谷事件が起こる。

治承のクーデタ 1179=52歳：_その後も平氏への圧迫を停めず、
_平盛子、重盛が死去するとその遺領を没収したため、清盛はクーデタを敢行し、鳥羽殿に幽閉され院政を停められる。

源氏一斉蜂起1180=53歳：_以仁王の挙兵、諸国源氏の蜂起が相つぎ、清盛より院政再開の申請があり、

平清盛没・・・1181=54歳：_院政を再開。

後鳥羽天皇・1183=56歳：_平氏が西走すると、比叡山に隠れて平氏との同行を拒否、かわって入京した源義仲に平氏追討の院宣を与える。一方で源頼朝に東国沙汰権を付与し、上洛を促して義仲を牽制。義仲により再び幽閉されたが、
・・・・・・・・1184=57歳：_頼朝代官として上洛した源義経が義仲を滅ぼすと、今度は義経に平氏追討の院宣を与えた。この頃、「梁塵秘抄」「梁塵秘抄口伝集」成る。

平氏滅亡・・・1185=58歳：_平氏滅亡後も、頼朝を牽制するためことさらに義経をひき立て、そのことが頼朝、義経の不和を招き、

奥州藤原滅亡1189=62歳：

源頼朝上洛・1190=63歳：_義経の要請に応じて頼朝追討の院宣が下したが、かえって頼朝に朝廷への干渉の口実を与える結果となり、いわゆる“守護・地頭の設置”を頼朝に認可せざるをえなくなり、

鎌倉幕府始・1192=65歳：法住寺殿で、_没した。

平安末期から鎌倉幕府草創期にかけての激動の中で、権謀術数と果敢な行動力をもって事に当たり、信西は“制法に拘らず意志を通す”、九条兼実は“黒白をわきまえない”、源頼朝にいたっては“日本国第一の犬神”と論評している。